

ベルデ地域支援センターニュース

ベルデ ネット



発行 2020年10月23日 (第9号)

事務局／堺市立重症心身障害者(児)支援センター内 ベルデ地域支援センター
〒590-0808 堺市堺区旭ヶ丘中町4-3-1 堺市立健康福祉プラザ2階
電話 072-275-8510 FAX 072-243-5900

ごあいさつ

堺市立重症心身障害者(児)支援センター
ベルデさかい センター長 児玉 和夫

ベルデ地域支援センター
からのごあいさつ

インフルエンザにもコロナにも屈しないために

新型コロナウイルス感染症は、今年の2月から大きな問題となり、3月には学校閉鎖、次いで飲食店やデパートなど市中の機能の大半が停止状態になりました。地域の事業所でも利用制限が相次ぎ、入所施設である「ベルデさかい」でも短期入所、生活介護の通所を制限し、入所者への面会もほぼなしにしました。4月から5月にかけては地域の機能が停止しかけていたといつてよいでしょう。

その中でも多くの事業所は、できる限りご利用者を受け入れていくよう努力を重ねてきました。職員の健康管理、感染防護に努め、本当に頑張ってくれたと思います。

6月の緊急事態宣言解除の頃から、「ベルデさかい」でも短期入所の通常受け入れを目指し出し、通所の利用自粛要請もなくし、ご利用者の数も旧に復してきました。大阪もですが、日本全体が新型コロナウイルス感染防止と経済活動や日常生活を共存させていく、という方向に舵を切ったわけです。これから寒くなり、インフルエンザの季節も到来し、新型コロナウイルスとの区別も難しくなり、更に心配は増えますがおそらくこの方向は変わることがないでしょう。

そうした時に大事になってくるのは、正確な情報把握とリスク分析です。この間新型コロナウイルス感染症は入所施設でも出ています。しかし感染予防策を遵守し、濃厚接触者を限定できるようにしてきたためか、拡大は防げているようです。それでも風評被害は発生しています。いまのネット社会では、誰かの「つぶやき」があつという間に広がってしまいます。そのため、利用に不安を持ち、中止にする事例が訪問系通所系などで多々見受けられます。冷静にみれば感染の可能性が考えられない場合でも、「風評」では危険視され、情報が広まります。

感染者や濃厚接触者と接した時期、感染予防対応がなされていた状況であったか、PCRなどの検査を受けたかどうか、などを調べて行けばリスクが高いか否かはかなりわかります。その上で、できるだけご利用の機会を維持していけるようにしたいものです。それでも感染者が出る可能性はゼロではありません。

そうした、やるべきことはしっかり行い、その上で感染者が出ることは冷静に受け止めていく、という判断力を私たちも、ご利用者・ご家族にも共通して持っていただきたいと思います。まさに「正しく恐れる」ということです。

そのための情報交換も必要でしょう。

インフルエンザにもコロナにも屈せず、地域の日常生活を守っていく、そうした冬にしたいものです。

堺市立重症心身障害者(児)支援センターベルデさかいの事業の5本柱(入所・短期入所・通所・外来診療・地域支援)のひとつ、ベルデ地域支援センターは事業開始から6年目に入りました。そして、9月からは地域・通所支援部の中の組織に改編されました。

さて、今年は早々から新型コロナウイルス感染症に翻弄され続けている年になっています。

「見えない恐怖と闘うこと」や、「正しい情報を理解」して「正しく恐れ」て、それらの対策を実行することの難しさ、そしてその中で弱者が切り捨てられ、不安な世の中になっていくことに徐々に慣れてしまっている怖さも感じます。

また、「新しい生活様式」という名の、人と人とのつながりが薄くなっていくことに関しては、私たちのような仕事に関わるものにとっては特に違和感と不安を感じます。

今回のベルデネットは、21回堺ミーティングで取り上げた新型コロナウイルス感染症に関する情報交換会の内容を別冊でお届けします。別冊と同じ内容は、ベルデさかいのホームページにも掲載していますので、是非ご一読ください。

継続して十分な感染症対策をしながら、コロナ禍前の安心な生活に一日でも早く戻れるよう、みんなで支えあっていきたいと思います。

障害を有する人たちの生活を支援することを軸に、今年度も、可能な限り堺ミーティングをはじめとして各種の講習会やイベント、情報発信を計画していきます。

ベルデ地域支援センターは、生活介護事業所などへの助言やお手伝いなども行っていますので、ご要望・ご相談もお気軽にお知らせ下さい。

ベルデネット第9号をお届けします。

ベルデ地域支援センター
地域支援部長

小澤 明人





第21回堺ミーティングの報告

日時:2020年8月28日(金)19:00~20:40

会場:堺市立健康福祉プラザ 3階 大研修室

情報交換会・テーマ:「新型コロナウイルスによる様々な影響とこれからの対策について」

- ①新型コロナウイルス感染症対策 ②事業所、施設の運営や管理
③利用者、保護者の心身の健康や生活 ④その他

今回は堺市内の生活介護事業所や作業所、グループホームをはじめとする社会福祉法人の管理者や訪問看護ステーションの方々を中心にご参加をお願いし、また、行政として堺市から障害者支援課、障害者基幹相談支援センターのまとめ役である総合相談情報センターも交えて、標記の新型コロナウイルス感染症の影響と対策について情報交換会を実施しました。

現在のような感染状況にもかかわらず、お願いしたすべての施設からご参加をいただき、活発な情報交換と、行政との情報共有も図れました。

各施設や事業所で、様々な工夫がされており、他施設にとって有益な情報もあったと思われます。また、私たちの知らないような影響を受けながら生活をされている事例などについての報告などもあり、影響の奥深さと幅広さを思い知らされました。

さらに今後の課題や対策も具体的に示されたと思いますので、今後も、ベルデさかいの地域支援センターが様々な情報集約と提供のネットワーク作りの中核的な存在として役割を果たせるよう、成長していく必要性を痛感しました。

今回参加された皆さんにとって、そして私たちベルデさかいの地域支援センターにとっても非常に有意義な情報交換会になりました。

引き続き今回のような情報交換会を開催できるよう準備を進めていきたいと思います。

なお、今回の情報交換会の内容は、ホームページ上で公開させていただいています。

ご参加頂いた皆様、ありがとうございました。

(報告) ベルデさかい 地域支援センター
支援部長 理学療法士 小澤 明人
事務局長 森 繁樹
事務次長 瑞泉 祐樹
相談員 今ヶ迫 昇平



リハビリ支援 報告 サニーばなな さん

2020年10月7日(水)、サニーばななさんにリハビリ支援に伺いました。2ヶ月に1度の頻度で伺い、日常的な支援の方法と一緒に考え、日々実践して頂いています。

今回は、コロナ禍で運動機能が低下した利用者さんの支援の検討や、股関節の術後の利用者さんの車椅子の検討などを中心に行いました。

継続して伺っていると、利用者さんの身体機能の変化がよくわかります。やはり、「継続は力なり」です。

他の施設にもお伺いしますので、お気軽にお声かけください。



A



B



C

A:マットの上でリラックスタイム
B:立ち上がりにくさを伺い
C:職員の方と誘導方法を検討しています
※写真の掲載は承諾をいただいています

■地域支援センターからのご案内・お知らせ■

講習会や勉強会などの詳細は、ベルデさかいホームページに随時掲載します

第22回堺ミーティングのご案内

日時: 2020年11月4日(水)19:00~20:30 (18:30受付開始)
会場: 堺市立健康福祉プラザ 2階 ベルデさかい 通所スペース 他
定員: 60名
テーマ: 「障害者の答えのない選択 あなたならどうする？」
講師: 橋本 洋之 医師(はしもとクリニック 院長、前 ベルデさかい 診療部長)

橋本先生は、障害を有する方々の婦人科疾患や性の問題をご専門としながら、ベルデさかいの診療部長としてもご利用者の医療と生活全般に関わってこられ、2020年4月に上野芝で開業をされています。

これまでのご経験から、障害を持ちながら『その人が、その人らしく生きるため』の課題や解決策を一つ一つの項目について教えていただきます。

たくさんのご参加をお待ちしております。

(十分な感染対策を行いますが、各自での対策もお願い致します)

堺ミーティングの内容



- ☒ おしもに手が行くのって病気？
- ☒ おしもが臭うのはおもらしのせい？
- ☒ 生理ってあった方が良い？
- ☒ 子宮・乳がん検診は必要？
- ☒ 生理痛や生理前のいらいらってわかる？
- ☒ 結婚して子供がほしいと言われたら？
- ☒ ずっと、小児科を受診するの？
- ☒ オンライン診療って、あやしい？

第23回堺ミーティングの予定

(仮題) 専門用語を使わない、障がいのある
子の親なきあとの「お金」の話
2021年2月頃を予定しています

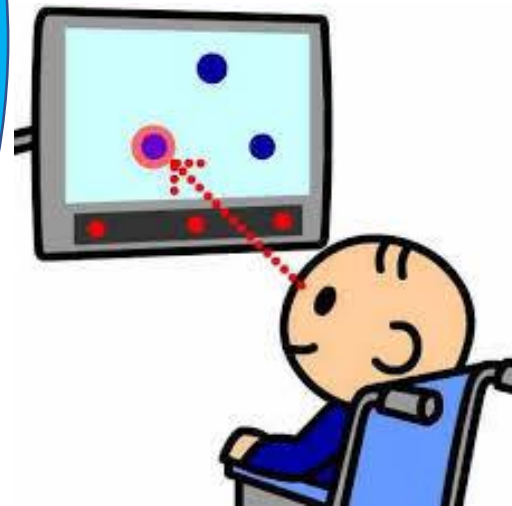
令和2年度 「障害者週間」 フェスティバル

日時: 2020年11月28日(土) 13:00~15:30
会場: 堺市立健康福祉プラザ 体育室
定員: 13時からと14時からで、各回8名(事前申し込み制)

「障害者週間」フェスティバルの事業として、例年はにぎやかに電動車いすフェスタを開催してきました。

しかし、残念ながら今年は新型コロナウイルス感染症の影響で、内容の変更を余儀なくされました。そこで、視線入力装置やいろんなスイッチなどを操作して遊ぼうという企画に変更しました。

詳細は、堺市の障害者週間のちらし、またはベルデさかいのホームページ
をごらんください。



通所からお知らせ

Family Support Project (ファミサポ)について

通所科は、専任の通所管理者(看護師)が1名配置となり、地域支援部長・サービス管理責任者(生活支援員)・看護師3名・生活支援員7名・相談員1名、リハビリテーションスタッフ2名の専任者が通所科の運営を担当しています。

今までも、ご家族からのご相談に個別に対応するということはありましたが、はっきりとした仕組みなどはありませんでした。そこで、今後は今まで以上にご家族に対する支援体制を強化できると考えています。

具体的に考えている内容として、「通所科を利用している利用者家族からの相談を、相談支援につなげる為のサポートを行う。」ことを主な目的とした活動を行いたいと考えています。そこで、

- ①介護・医療・看護・リハビリテーションの事等で悩んでいるが、どこに相談すれば良いか分からない
- ②障害福祉サービスを利用するのに、どこにいった何をするにいいのかわからない
- ③どんなサービスが受けられるのかも分からない
- ④とにかく今の不安な気持ちを聞いて欲しい

等、お気軽にご相談下さい。

ベルデさかいに電話連絡でも良いですし、送迎時に同乗しているスタッフに声をかけて頂く、利用日に連絡帳に書いて頂くなど、どのような方法でも良いので気軽にご相談下さい。ご連絡お待ちしております。



通所管理者 朝倉
地域・通所支援部 小澤